

2017年9月16日

## 北朝鮮の挑発行動の即時停止を求める談話

日本労働組合総連合会北海道連合会  
事務局長 杉山 元

北朝鮮は、9月15日午前6時57分頃、またしても弾道ミサイルを予告なく発射した。道内ではミサイルによる被害情報は無いものの、小中学校が始業時間を繰り下げ、また、公共交通が停止するなどの影響が生じた。

ミサイルは同国西岸より発射され、日本の上空を通過して約3,700キロメートル飛翔し、北海道襟裳岬の東方約2,000キロメートルの太平洋上に落下した。11日に国連安全保障理事会において、石油精製品の輸入制限を含むあらたな制裁決議が採択された直後であり、国際社会の警告をあざ笑うかような挑発行動は理解しがたい。連合北海道は強く抗議する。

北朝鮮は今月3日に6度目の核実験を行っており、北朝鮮の弾道ミサイルが日本上空を通過したのは、人工衛星と称されるものを含め今回で6度目である。

繰り返される核実験やミサイル発射実験は、全世界、特に東アジア地域の安全を脅かしている。韓国は最新の迎撃システムを追加配備し、米国はアラスカ基地に迎撃ミサイルを増強配備した。日本もミサイル防衛を強化する方針にある。ロシアは不安定さを増す東アジア状況を理由に、択捉島と国後島に最新鋭の地対艦ミサイルを配備し、北方四島の軍事強化を正当化している。

連合は、北朝鮮に対し、核実験や弾道ミサイル計画に関するすべての行動の即時停止と、国連安全保障理事会決議の完全履行を改めて強く求める。

また日本政府に対し、経済制裁や軍事的な圧力では問題の解決につながらないことから、国際社会との連携により一刻も早く北朝鮮との直接対話による危機回避の道を開くよう改めて強く求める。同時に、「ミサイル実験の即時停止」「核開発の完全放棄」「日本人拉致被害者の早期解放」など、北朝鮮にかかわる諸課題の早急な解決をめざし、国際社会との結束した取り組みを要請する。

連合北海道は、国民・道民の命と暮らしを脅かし、東アジア地域の平和を危うくする、ミサイル発射に抗議し、繰り返される挑発行動の即時停止を求める。

以上